



仲間に、あなたに、**ありがとう**

～誇れる自分づくり～

ピンチはチャンス！今こそ、 昨年以上に力強い3年生になるとき！

新年度スタートの初日、まず皆さんがいつもと変わらない元気な姿で登校してくれたことにほっとしました。3年生になって初めて臨む式では、「明中の顔」にふさわしいきりつとした姿を見ることができました。話を聞く姿勢はもちろんですが、聞くときの眼差し、礼の仕方など細かいところにまで「私たちは3年生だ！」という自覚が表れているように感じました。

式の中で、I. Hさんは自分の言葉でこう語ってくれました。

昨年を上回る史上最高の明中を創るには、この1学期に基盤を安定させ、充実した活動を行わなければなりません。基盤を安定させるためには、昨年度高めてきた当たり前をしっかりと引き継がなければならないと思うので、全校生徒全員が挨拶や服装などにこだわり、日常生活の基盤を築いていけるようにしましょう！

I. Hさんは卒業式に出席したたった一人の在校生として、自分が聞いた先輩の思いを2、3年生に届けてくれました。例年とは異なる慌ただしいスタート。できることが限られている中で、明智中学校の日常生活の基盤をつくるためには、3年生が中心となり、学校全体を昨年以上に力強く引っ張っていく必要があります。この学校を1番よく知っているのは私たちです。「いつもと違う、だけどちゃんとできる」のは、これまで積み上げてきた日常生活があるからこそ。日常生活の大切さも全校に伝えながら、活動を進めていきたいですね。

入学式準備では、与えられた持ち場で仕事を果たそうとする気持ちがよく表れていました。その中でも、並べた椅子の最終調整をしていたM. Sさん、Y. Hさん、A. Kさん。延長コードを職員室から借り、赤じゅうたん全てに掃除機をかけてくれたM. Sさん、K. Mさん。花の位置を考えて指示を出していたM. Yさん。言われたこと以上に、今何をするとよりよいのかを自分で考え行動に移す彼らの姿は、3年生にふさわしいものでした！こういった動きが、これからはどんどん必要です。また、準備をしている中で、準備が不十分な様子を見たのでしょう。「これじゃあ新入生がかわいそうだよ」という声が聞こえてきました。“活動の向こう側にいる人”を考えないと出てこない言葉です。素敵だなあと思いました。全校を引っ張る上で、活動の価値やその向こう側にいる人を考え、伝えられなければ、後輩の心は動かさません。これまでの2年間で経験してきたことだけでなく、その活動の価値まで語れるような3年生を目指したいですね。

入学式には、在校生代表としてA. Hさん、伴奏者としてI. Kさんが参加しました。朝のリハーサル終了後、本来ならば何も仕事なかったはずの2人が、「何かやることはありますか？」と1年生教室に駆けつけてくれました。その後新入生に花を渡したり、カバンの片付け方をレクチャーしたりと、先輩としてその場でできる最大限のことをしてくれた2人。入学式では堂々とした姿を後輩に見せ、式後も片付けを手伝ってくれました。休校が続く3年生の姿を新入生に見せられないのは残念だなあ…とっていたため、この日2人がそのような動きをしてくれたことはすごく嬉しい出来事でした！

当たり前の日常が戻らないこのピンチをチャンスに変えるのは、私たちの気持ちと動き次第。これまでにない史上最高の3年生として、明智中を引っ張っていこう！！